

2025年6月17日(火) ハコラク7月号 掲載

ドクターコラム『学校心臓検診、特に小中学生の心電図検診について』

小児科 佐々木 真樹 診療部長

Doctor
Column

小児科

学校心臓検診、特に小中学生の心電図検診について

学校心臓検診と聞いても多くの方の感想は「そんなのあったっけ?」といったところでしょう。学校心臓検診とは毎年学校で受ける内科検診と小学校1年生と中学校1年生、高校1年生のときに受ける心電図検診のことです。

学校心臓検診は今から50年以上も前に法律で義務化されて、平成7年には心電図検診が義務化されました。当初はリウマチ性心疾患の発見を主な目的としていましたが、リウマチ性心疾患が減少するにつれて先天性心疾患の発見や心臓性突然死の防止に検診の主眼が置かれるようになりました。残念ながら検診で心臓突然死を防ぐことはできないということが分かってきました

が、検診をきっかけに心疾患が見つかることは昔も今も珍しくありません。特に心電図検診は心房中隔欠損症や不整脈などの疾患の発見に威力を発揮しています。

心房中隔欠損症は小児期には無症状なため、検診で見つからないと成人になって心不全を発症してから診断されます。心不全を発症してから手術などの治療を受けても不整脈などの遺残症が残ることが多いので、できれば思春期頃までに治療を済ませたい疾患です。

函館市立の小中学校において、最近では小学1年生と中学1年生の合計で、年2800名程度が心電図検診を受けています。10年前は年3500名程度でした。

毎年1.5〜2.0%程度の児童生徒が異常として病院を受診するよう指示されています。病院を受診した結果、治療が必要な心房中隔欠損症と診断された児童生徒がこの10年間で7人います。ほかにも修正大血管転換症やQT延長症候群などの疾患が見つかって、おのおの通院治療を受けています。

心電図検診で異常と判定されても、必ずしも病気があるとは限らないのですが、病院受診を指示された方は、道南地域であれば、市立函館病院、函館五稜郭病院、共愛会病院、函館中央病院の小児科で心臓二次検診を行っていますので、ぜひ受診するようにしましょう。



函館中央病院

小児科

まなき
佐々木 真樹 診療部長

略歴

平成2年、北海道大学医学部卒業後、同大医学部附属病院、釧路赤十字病院、千歳市立総合病院、市立小樽病院、東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所、手稲溪仁会病院、国立函館病院（現函館医療センター）勤務を経て、平成15年、函館中央病院小児科に着任し、医長就任。平成22年から科長を務め、令和5年、診療部長に就任した。